POWER ENTERPRISE Co.,Ltd.

i-Cruise

取付けのために、以下の工具をご用意ください。

・ニッパー、ペンチ（配線・結線作業に使用します。）
・ハンダごて、ハンダ（結線作業に使用します。）
・検電テスター（配線する線を探すのに使用します。）
・ドライバー、スパナなど（内装の分解に使用します。）
・キリ、リーマ、ヤスリ（レバー取付け用の穴あけに使用します。）

その他、車両などにより工具が必要になることがございます。
適切な工具をご用意の上、作業を開始してください。

取扱説明書

はじめに

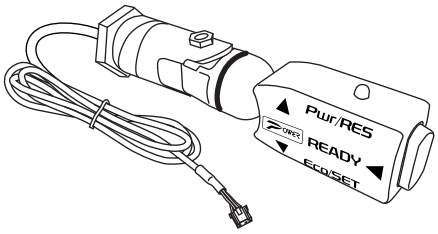
この度は、「i-Cruise」をお買上げいただきまして、誠にありがとうございます。
この取扱説明書には、i-Cruise本体の機能、配線方法、操作方法、および使用上の注意について記載してあります。
i-Cruiseの機能を十分にご理解いただき、安全かつ効果的にご使用いただくために、ご使用前に必ず本取扱説明書をよくお読みになり正しい使用方法で使用してください。
・取付け後も本取扱説明書および車種別配線図を大切に保管してください。
・i-Cruiseは競技専用部品です。公道では道路交通法等の法規に従って使用してください。
・本製品は精密機械ですのでお取扱には十分にご注意ください。
・商品の外観、仕様、価格等は予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

目次

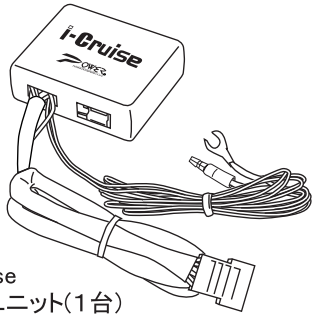
◇はじめに ・・・

パーツリスト

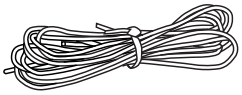
お取付け前に、不足部品がないかご確認ください。



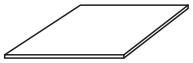
i-Cruise
レバーユニット(1台)



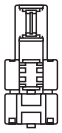
i-Cruise
本体ユニット(1台)



ケーブル青・赤・緑
(各1束)



両面テープ(1枚)



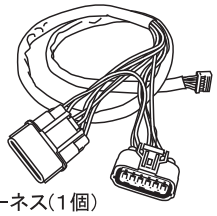
エレクトロタップ
(2個)

タイラップ
(3本)

取扱説明書・
保証書(本書1冊)

車種別配線図(1枚)

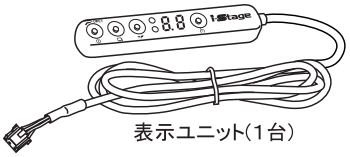
別売品(必ず必要です。)



車種別ハーネス(1個)

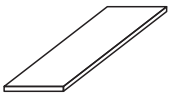
適合表をご覧になり、
車両に適合するハーネスをお買い求めください。

別売品(表示ユニット)

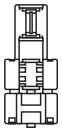


表示ユニット(1台)

ケーブル黄(1束)



両面テープ(1枚)



エレクトロタップ(1個)

機能と特徴

標準・オートクルーズ機能

走行中、レバーを下げると、オートクルーズを開始します。(およそ30km/h以上で機能します。)
オートクルーズはブレーキを踏むかレバーまたはオプションのボタン操作ですぐに解除し、通常の走行に戻ります。
さらに、オートクルーズ中にレバーを倒すと、オートクルーズ速度を2km/hずつ上昇/低下させることができます。
これにより、従来の後付けオートクルーズではオートクルーズを一度解除→アクセルペダルで加速→オートクルーズ再設定、という手間があったものがワンアクションで可能になりました。

リジューム・オートクルーズ機能

オートクルーズをするとその速度を記憶し、通常走行中にレバーを上げると、記憶速度まで自動的に加減速してからオートクルーズします。
前が詰まって一時的に減速したが、その後に再びオートクルーズしたいときに便利な機能です。
安全のため、50km/hを下回ると記憶速度を消去しリジュームしなくなります。

危険

ブレーキを制御する機能はありません。
エンジンブレーキのみでは車速を維持できないような急な下り坂ではドライバーのブレーキ操作による車速の調整が必要です。

交通量の多い道など、車間を十分に保てない状況ではこの機能を使用しないでください。解除が遅れると、追突事故を引起こす恐れがあります。

凍結や積雪時など、路面が滑りやすい状況ではこの機能を使用しないでください。タイヤがスリップする恐れがあります。

注意

上り坂から下り坂にさしかかったときなど、走行条件の変化により速度を一定に保てないことがあります。車両のスピードメーターには常に注意し、必要に応じて車速を調整してください。

重要

マニュアルトランスミッションの車両では、急な上り坂ではシフトダウンをしないと車速が維持できないことがあります。

機能と特徴

オート・スロットルコントロール機能

オートクルーズをしないときには、レバーのアップ・ダウン操作により車両のアクセルレスポンスを3パターンの内から好みで走行することができます。
アクセルレスポンスは常に最適になるように、車速に応じて自動調節されます。

・ノーマル
アクセルレスポンスは純正状態です。(電源OFF)

・パワー・オート
アクセルレスポンスが全体的に鋭く余裕・パワフルな走りになります。

・エコ・オート
アクセルレスポンスが全体的に緩やかになり省エネ走行をサポートします。

マニュアル・スロットルコントロール機能 (オプション表示部による拡張機能)

アクセルレスポンスが鋭くなるパワーステージ7パターン、アクセルレスポンスが緩やかになるエコステージ5パターンから、お好みのアクセルレスポンスで走行できます。
車速に応じた自動変化はありませんが、好みに応じてより細かく設定することができます。
マニュアル・コントロール中にレバー操作を行なうことで、上記のオート・コントロールに切替わり、オート・コントロール中にオプションのボタン操作をすることでマニュアル・コントロールに切替わります。

アクセルキャンセラー機能

i-Cruiseの電源がONのとき、アクセルを踏んだ状態のままブレーキを踏むと、スロットルを強制的にOFF(開度0%)にします。
アクセルペダルにカーペットや物が引っかかるなどでアクセルが戻らなくなった時でも、車両を確実に減速・停止させることができます。

注意

アクセルキャンセラー機能を有効にするためには、ブレーキ信号線を必ず接続してください。

機能と特徴

バックスピードアシスト機能

i-Cruiseの電源がONのとき、ギヤをリバース(後退)にすると自動的にノーマル状態になります。これにより、バック走行でのアクセルレスポンスを穏やかにできます。
また、表示ユニット(別売)を装着していると、ギヤをリバースにしたときに表示部に が表示され、機能が作動していることをお知らせします。

注意

バックスピードアシスト機能を有効にするためには、リバース信号線(緑)を必ず接続してください。

アクセル開度の表示機能（表示ユニットによる拡張機能）

アクセルから足を離している状態を0%、床まで踏込んでいる状態を100%として、i-Cruiseが車両のコンピュータに出力しているアクセル開度を表示します。
表示開度は15～100%で5%刻みに表示します。(100%は「－－」と表示されます。)
アクセル開度が15%以下の時にはスロットルコントロールのステージとパターンを表示します。

機能と特徴

W-エコモード機能（表示ユニットによる拡張機能）

スロットルコントロールがエコステージの時に、さらに「アクセル操作に対してスロットルが遅れて動作する機能」を付加します。
この機能は急激なアクセル操作をキャンセルし、アクセルのON-OFFを繰り返すような場面での燃費走行をアシストします。
さらにスロットルの遅れタイミングは7段階に調整できるので、車両やドライバーを選ばず、スムーズなエコ走行を可能にします。
また、アクセルを40%以上開けたときにはこの機能は自動的にキャンセルされ、力強い加速が必要な場面でもストレスを感じさせません。
スロットルの遅れは開く(アクセルを踏む)方向にのみ働きますので、緊急ブレーキなどの減速には何の影響もなく、安全性を損ないません。

レースモード機能（表示ユニットによる拡張機能）

スロットルコントロールがパワーステージの時に、さらに「ブレーキからアクセルへと足を移すときのタイムラグをなくす機能」を付加します。
この機能をONにすることで、ブレーキを離してから0.5秒間アクセルが自動的に開き、アクセルに足を移す前にすでに車両を加速体勢にすることができます。
さらに、車両やコースに合わせた調整ができるように、アクセルの開度は15～60%の10段階(5%刻み)に設定できます。
表示部分が点滅することでレースモードがONになっていることをお知らせし、また、車速が40km/h以下の時(※)にはこの機能は動作しないので、安全に使用することができます。

ブリッピング機能（表示ユニットによる拡張機能）

シフトダウンのときにアクセルを自動的にあおる機能が働き、変速ショックを軽減させることができます。
スポーツ走行では、ブレーキング時のヒールアンドトゥと同等の機能として使用することができます。
安全のため、車速が40km/h以下の時(※)と加速中(アクセルを踏んでいる時)のシフトダウンでは、この機能は動作しません。

注意

ブリッピング機能は、CVTを除くオートマチックトランスミッション車で、スポーツシフト(手動でシフトチェンジができる)搭載車でのみ使用できます。

安全にご使用いただくために

この取扱説明書には、あなたや他の人の財産や身体への損害を未然に防ぎ、本製品を安全かつ効果的にご使用いただくために守っていただきたい事項をマークと共に記載しています。
必ずこの取扱説明書に示されている安全に関する注意事項をよくお読みになり、十分にご理解いただいた上でご使用ください。
本書中で使用されているマークと、その意味は下記のようになっています。

財産や身体に重大な被害が発生する恐れがあるもの。

車両や製品の破損および故障等を引き起こす恐れがあるもの。

本製品を使用するにあたって必ず知っておいていただきたいこと。

一般注意事項

本製品の分解や改造は絶対にしないでください。本体の故障や破損の原因となります。お客様が分解や改造を行った場合、保証期間内であっても無償修理を行えなくなります。

製品保証書（本取扱説明書裏表紙）は販売店および指定事項をご記入の上、大切に保管してください。また、修理の際には保証書を必ず添付してください。記入もれや販売店の記入がない時は有償となる場合がございます。

製品に強い衝撃を与えないでください。故障や破損の原因となります。取付け時等の落下にご注意ください。

本製品に故障または異常があった場合は、ただちに使用を中止し、販売店または弊社までご連絡ください。

本製品を使用しての事故や車両故障、破損、違法行為等につきましては、弊社では一切の責任を負いかねます。

本製品を取付けた車両を他の人に貸出し、または譲渡する場合は、必ず本製品が取付けられていることを知らせ、この取扱説明書と保証書も必ず渡してください。

配線・取付け方法

取付け時の注意事項

危険

適合車種以外の車両に取付けないでください。走行に支障が生じるような不具合が生じたり、車両を破損させる可能性があり危険です。

ハンドルやシフトレバー、ペダル、その他運転の妨げになる所へ本体ユニットや操作ユニットを取付けたり、配線を取り回すことはおやめください。事故の原因となり大変危険です。

本体ユニットや操作ユニットを湿気やほこりの多い場所、直射日光の当たる場所、熱のこもる場所、ヒーターの吹き出し口の近く等に設置しないでください。本体の変色、変形、製品の誤作動、故障や破損の原因となります。

配線作業を行う際には、必ずキーシリンダーからキーを抜き、バッテリーのマイナス端子を外してください。
配線のショートによるi-Cruiseの破損、車両の破損や火災の恐れがあり、大変危険です。

純正のブレーキランプ(テールランプ)のバルブが電球タイプの場合、ＬＥＤタイプに変更しないでください。
ブレーキを踏んでもオートクルーズが解除できないなどの危険が生じる恐れがあります。

注意

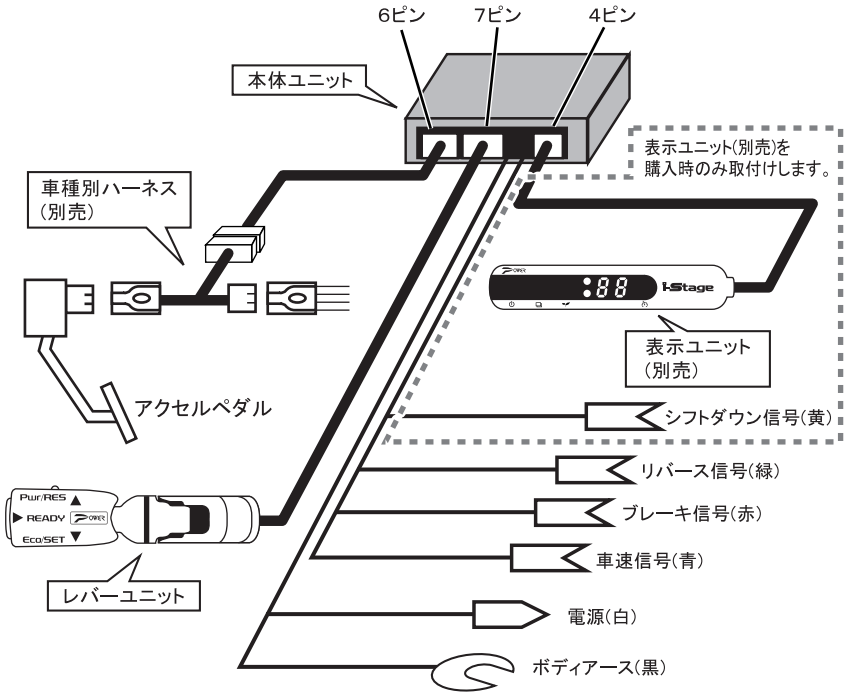
本製品の取付けには、必ず専用の車種別ハーネスを使用してください。

取付けは専門店にて行ってください。誤った配線を行うと車両火災等の重大なトラブルの原因となります。
エンジンルーム等の、水の影響を受けやすい場所への配線を行う場合には、接続部分に絶縁処理、防水処理を必ず行ってください。

コネクタを抜き差しする場合は、コネクタ本体を掴んで作業して下さい。ハーネスを引張るなどして無理な力を加えると断線する恐れがあります。

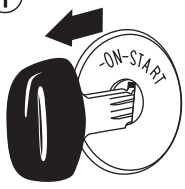
取付け概略図と取付け手順

取付け概略図



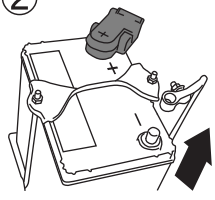
作業手順

①



イグニッションOFF
キーを抜く

②



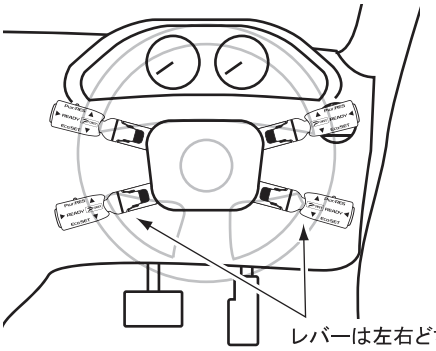
バッテリーの
マイナス端子を外す

① 車両を平らな場所に停め、サイドブレーキをしっかりかけてイグニッションキーを抜いてください。

② バッテリーのマイナス端子を外してください。

取付け概略図と取付け手順

作業手順（レバーの取付け）



③ レバーを取付ける位置を決めて、位置をマーキングしてからハンドルコラムを分解してください。

危険

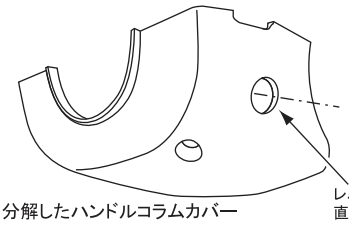
レバーを運転の妨げになるような位置に固定しないように注意してください。
ハンドルを回す、ハンドルをチルトアップ/ダウンさせるなどして、慎重に確認してください。

注意

ハンドルコラムの分解方法は車種により異なります。専用の整備書を参考にし、専門家による作業を行なってください。

段差がある位置や曲面などでは、取付けができなかったり取付け後ににガタが生じる恐れがあります。なるべく平らな場所に取付けしてください。

レバーは、コラムの左右どちらにも装着可能です。



④ マーキングした箇所の内側に配線やステーなどの障害物がないことを確認したら、マーキングした箇所に直径14mmの穴をあけてください。

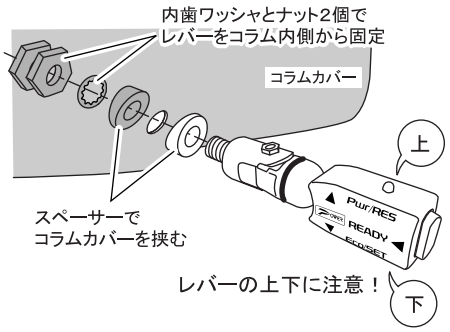
注意

レバーの取付けにより、コラム内側に10mm以上の突出しが生じます。
コラムを元通りに取付けた時に可動部に接触したり、ステーなどによりコラムが取付かない恐れがないかを慎重に確認してください。

穴あけ作業は、小さな穴から徐々に大きくしていき、レバーのネジ部が挿入できる大きさからはヤスリなどで調整しながら穴を拡大していくと、正確な位置にきれいに穴あけすることができます。

取付け概略図と取付け手順

作業手順（レバーの取付け）



⑤ 左図のように、コラムをスペーサーで挟む形でレバーを内歯ワッシャとナット2個で固定してください。

ナットは1個ずつ、順に締付けてください。

⑥ レバーの配線をハンドル下などに引出しておき、ハンドルコラムを元通り取付けてください。

注意

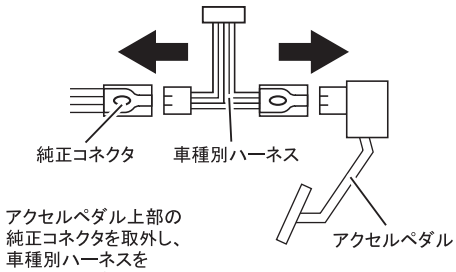
スペーサーは、コラムとレバーの角度を調整するために使用します。
スペーサーを回しながらレバーを好みの角度に調整し、固定してください。

ナットを強く締付けすぎると、ハンドルコラムを破損する恐れがあります。
緩み止めとして内歯ワッシャをはさみますので、必要以上に強く締付ける必要はありません。
レバーを動かした時に緩んだりガタが生じない強さで締付け、締めすぎには注意してください。

危険

配線は、ハンドルなどの可動部に接触しないように注意して取り回してください。

作業手順（車種別ハーネスの取付け）



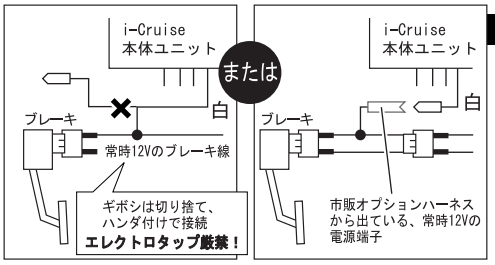
アクセルペダル上部の
純正コネクタを取外し、
車種別ハーネスを
アクセルペダルと純正
コネクタに接続する。

⑦ 純正のアクセルペダルのコネクタを取外し、車種別ハーネス(別売)を接続してください。

取付け概略図と取付け手順

作業手順(各種配線)

⑧ 以下に従って、各配線を行なってください。

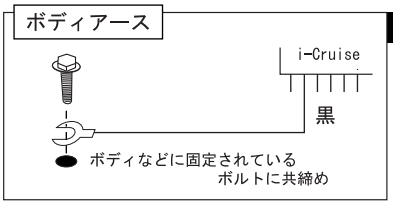


〈電源線(白)〉

ブレーキペダル上部のブレーキスイッチの、常時12V(キーを抜いていても)となっている線に接続してください。

注意

工場出荷時には、市販のブレーキ用ハーネスに簡単に接続できるように、電源線にギボシ(オス)を接続しています。
ギボシを使用しない場合は切断し、半田付けにて接続してください。
エレクトロタップは接触不良の恐れがありますので電源線(上記)とブレーキ線(P13参照)には絶対に使用しないでください。

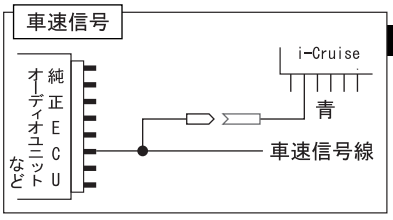


〈アース(黒)〉

ボディの集中アース部などのネジに共締めしてください。

注意

ステーなどにアースする場合、そのステーがボディに固定されていることを確認してください。
プラスチック部品などに固定されているステーでは、アースできません。
ボディの塗装部などへのアースは動作不良の原因になりますので避けてください。

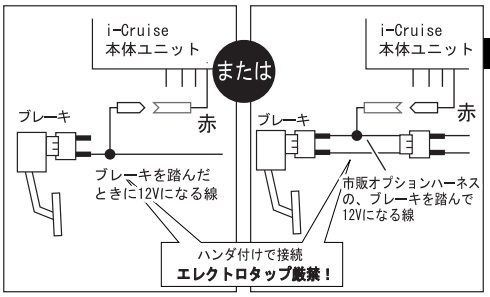


〈車速信号線(青)〉

オートクルーズ機能、ブリッピング機能、レース機能を使用するために必要な配線です。
接続する線の位置は、別紙の車種別配線図に記載しています。

取付け概略図と取付け手順

作業手順(各種配線の続き)

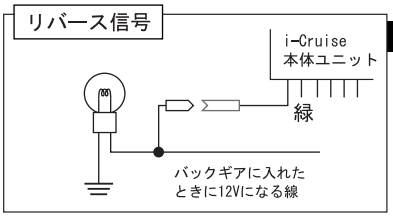


<ブレーキ信号線(赤)>

オートクルーズ機能、レース機能、アクセルキャンセラ機能を使用するために必要な配線です。
ブレーキスイッチのコネクタから、ブレーキを踏んだときに12Vになる線を検電テスターなどで探し出して接続してください。

注意

オートクルーズ機能を使用する場合、ブレーキでオートクルーズを解除するために確実に配線してください。
エレクトロタップは接触不良の恐れがありますのでブレーキ線(上記)と電源線(P12)には絶対に使用しないでください。



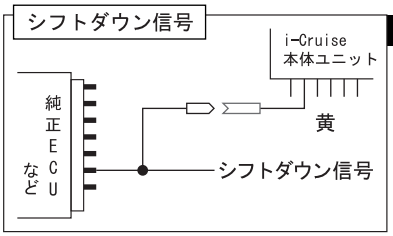
<リバース信号線(緑)>

バックスピードアシスト機能を使用するために必要な配線です。
リバースギヤに入れたときに12Vになる線に接続してください。

注意

リバース信号線を接続しないと、後退時にもスロットルコントロールなどの機能が有効になります。
後退時に急発進などの危険が生じないよう、リバース信号線の接続をしてください。

別売の表示ユニットを購入されていない場合は、
以下の配線は必要ありません。P14に進んでください。



<シフトダウン信号線(黄)>

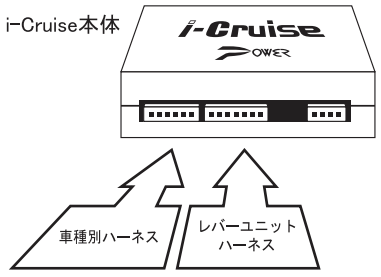
ブリッピング機能を使用するために必要な線です。
マニュアルモード付のAT車(CVTを除く)で、表示ユニットを購入した場合のみ、接続してください。

取付け概略図と取付け手順

作業手順（本体の固定）

重要

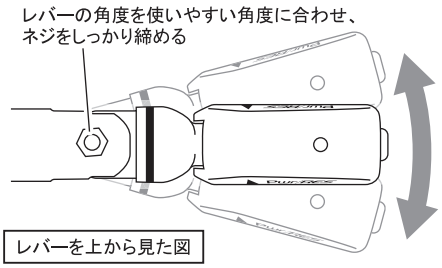
表示ユニットを同時購入されている場合は、先に下記の＜表示ユニット(別売)の取付け＞に従って表示ユニットの取付けを進めてください。



⑨ 本体ユニットに、
・車種別ハーネス(6ピンコネクタ)
・レバーユニット(7ピンコネクタ)
を接続してください。

⑩ 各ハーネスを、運転の邪魔にならないようにタイラップを使用して取りまとめてください。

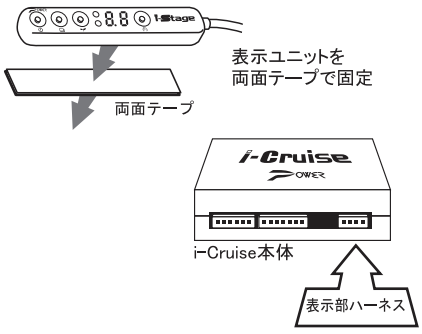
⑪ 本体ユニットを、両面テープで運転の邪魔にならない位置に固定してください。



レバーを上から見た図

⑫ レバーユニットは、固定ネジを緩めて前後に傾けることができます。使いやすい位置に合わせたら、元通りネジを締め付けてください。

作業手順（表示ユニット（別売）の取付け）



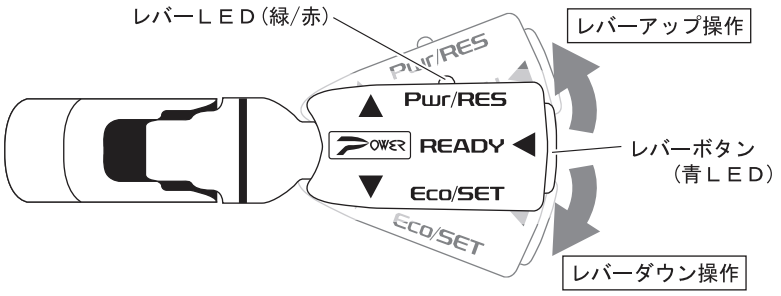
⑬ 表示ユニットを、両面テープで見やすい位置に固定してください。

⑭ ハーネス(4Pコネクタ)は可動部などを避けて取り回し、本体ユニットに接続してください。

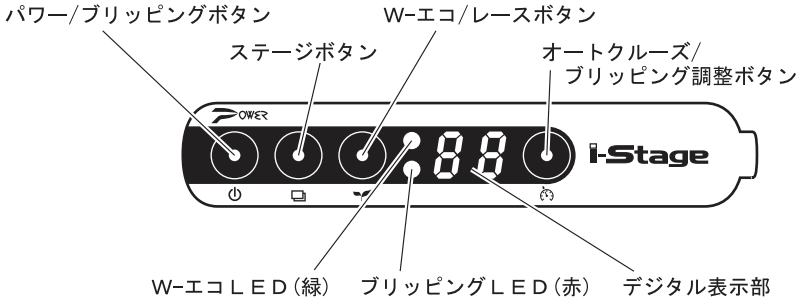
⑮ ハーネスを、運転の邪魔にならないようにタイラップを使用して取りまとめてください。

操作方法

各部名称（レバー）



各部名称（表示ユニット）



危険

運転者が運転中に本製品の操作を行うときは、脇見運転とならないように十分に注意してください。事故の原因となり大変危険です。

走行中や信号待ちなどでこれらの操作を行なっていると、急な動作に対応できず事故を引き起こす原因となります。

本製品の操作は、機能を十分に理解している方のみが行なってください。それ以外の方が操作しますと、走行中など思わぬときにエンジンが停止するなどして事故を引起こす可能性があり危険です。特にお子様などが操作しないように十分ご注意ください。

初期設定1. <アクセルの学習>

注意

取付け後は、必ずアクセルの学習と車速の学習(P21)を行なってください。

ここではまず、i-Cruiseに純正のアクセルペダルの特性について学習させます。この学習を行なわずにi-Cruiseの電源をONにすると、エンジンチェックランプが点灯し、i-Cruiseが動作しないばかりか、正常に走行できません。
なお一度学習させれば、同じ車両で使用する限り、<i-Cruiseを取外す><バッテリー端子を取外す>をしても再学習の必要はありません。

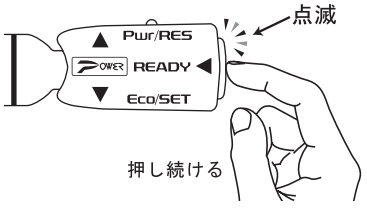
同時購入の場合のみ、レバーと表示ユニット(別売)のどちらでもアクセル学習をできます。

① イグニッションキーをONにし(メーターの警告灯類が点灯し、エンジンが始動していない状態)、レバーボタンのLEDと表示ユニットのデジタル表示部が全て消えていることを確認してください。

レバーボタンが点灯している場合はレバーボタンを押して消灯させてください。
レバーLEDが点灯している場合は、レバーのアップ/ダウン操作で消灯させてください。
表示ユニットのデジタル表示部に何か表示されている場合には、パワーボタンを押し続けて消灯させてください。

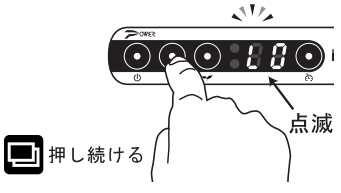
レバーで学習する場合

② レバーボタンを押し続けてください。約5秒後、レバーボタンが点滅したら指を離してください。



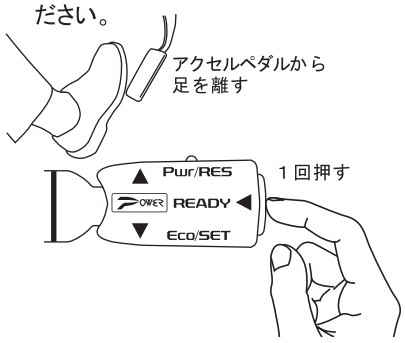
表示ユニット(別売)で学習する場合

② モードボタンを押し続けてください。デジタル表示部に「L※」の表示が点滅したら指を離してください。

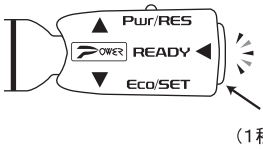


初期設定1. 〈アクセルの学習〉

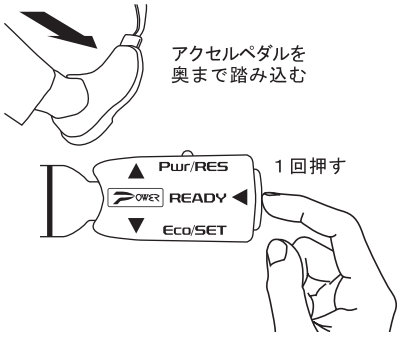
③ アクセルペダルから足を離した状態でレバーボタンを1回、押してください。



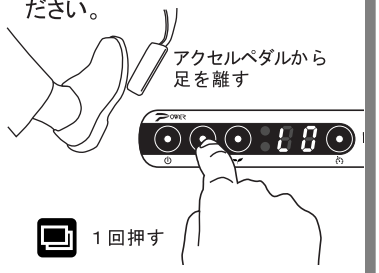
④ レバーボタンが早い点滅になります(1秒間に2回)。



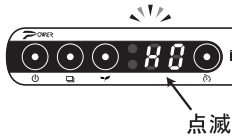
⑤ アクセルペダルを床まで踏込んだ状態でレバーボタンを1回、押してください。



③ アクセルペダルから足を離した状態でモードボタンを1回、押してください。



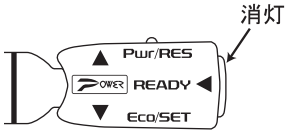
④ 「L※」表示が点滅から点灯になり、約1秒後に「H※」点滅になります。



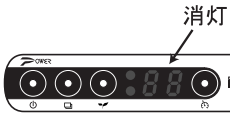
⑤ アクセルペダルを床まで踏込むと「H※」の数値が変化しますので、そのままの状態でモードボタンを1回、押してください。

初期設定1. <アクセルの学習>

⑥　レバーボタンの点滅が消えます。



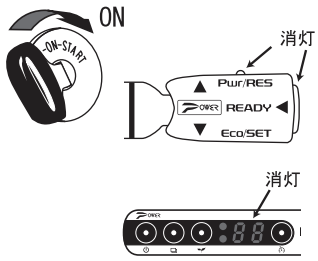
⑥「H※」表示が点滅から点灯になり、約1秒後に電源がOFFになります。



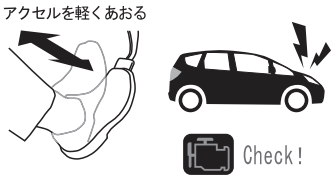
以上で、アクセルの学習が完了です。

動作確認

取付け後、以下に従って動作確認を行なってください。
何か異常が生じた場合には動作確認を中断し、トラブルシューティング(P40～)を参考に、原因を取り除いてから再度動作確認を行なってください。



① イグニッションキーをONにし(メーターの警告灯類が点灯し、エンジンが始動していない状態)、レバーボタンのLEDが消灯、表示ユニットのデジタル表示部が全て消えていることを確認してください。
・ レバーボタンのLEDが点灯している場合はレバーボタンを押して消灯させてください。
・ 表示ユニットのデジタル表示部に何か表示されている場合には、パワーボタンを押し続けて消灯させてください。



② そのままエンジンを始動し、アクセルを軽くあおってください。アクセルがいつも通り反応し、エンジンチェックランプの点灯などの異常がないことを確認してください。

エンジンチェックランプが点灯した時は・・・

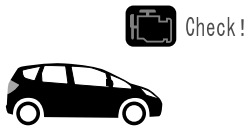
エンジンをかけたままアクセルを踏み、エンジン回転数が変化するかを確認してください。
変化がある場合は、i-Cruise以外の取外した純正部品などを取付け忘れていないか、確認してください。
変化がない場合は、i-Cruiseの車種別ハーネスの取付けに誤りがないかを確認してください。
確認後、チェックランプを消し(P39)、もう一度動作確認①からやり直してください。

③ レバーを下に1回倒し、レバーLEDが緑色に点灯することを確認してください。
そのままアクセルを軽くあおって、アクセルがいつも通り反応し、エンジンチェックランプの点灯などの異常がないことを確認してください。

動作確認

エンジンチェックランプが点灯した時は・・・

アクセルの学習が正常に完了していない可能性があります。エンジンチェックランプを消し(P39)、もう一度アクセルの学習(P16)を行なってください。



④ 実走行をしてください
車の挙動に異常がないことや、エンジンチェックランプの点灯などの異常がないことを確認してください。

エンジンチェックランプが点灯した時は・・・

アクセルの学習が正常に完了していない可能性があります。エンジンチェックランプを消し(P39)、もう一度アクセルの学習(P16)を行なってください。

初期設定2. <車速の学習>

注意

取付け後は、必ずアクセルの学習(P16)と車速の学習を行なってください。

ここでは、i-Cruiseに純正の車速信号の特性を学習させます。
この学習を行なわずにi-Cruiseを使用すると、オートクルーズなどの機能が正常に機能しません。
なお一度学習させれば、同じ車両で使用する限り、<i-Cruiseを取外す><バッテリー端子を取外す>をしても再学習の必要はありません。

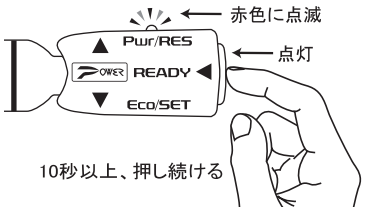
同時購入の場合のみ、レバーと表示ユニット(別売)のどちらでも車速の学習をできます。

① エンジンを始動し、レバーボタンのLEDと表示ユニットのデジタル表示部が全て消えていることを確認してください。

レバーボタンが点灯している場合はレバーボタンを押して消灯させてください。
レバーLEDが点灯している場合は、レバーのアップ/ダウン操作で消灯させてください。
表示ユニットのデジタル表示部に何か表示されている場合には、パワーボタンを押し続けて消灯させてください。

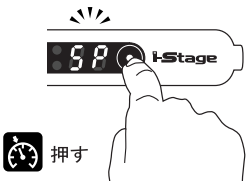
レバーで学習する場合

② レバーボタンを押し続けてください。約5秒後、レバーボタンが点滅しますがそのまま押し続けてください。さらに約5秒後、レバーボタンの点滅が消えてレバーLEDが点滅したらたら指を離してください。



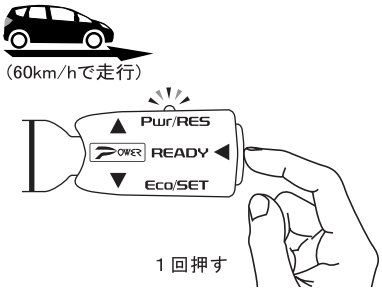
表示ユニット(別売)で学習する場合

② オートクルーズボタンを約1秒間、押し続けてください。デジタル表示部に「SP」と表示されます。

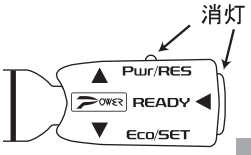


初期設定2. 〈車速の学習〉

③ 60km/hを保って走行し、その状態のままでレバーボタンを押してください。

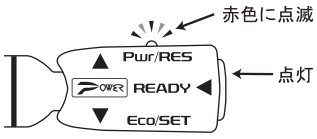


④ LEDの点滅が消えたら、設定完了です。



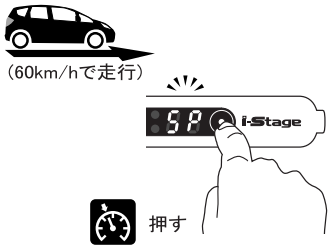
設定完了

LEDが点滅したままの場合、設定ができていません。
もう少し高めの速度で学習してみるか、車速信号の接続を見直して再設定してください。

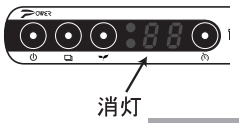


設定やり直し

③ 60km/hを保って走行し、その状態のままでオートクルーズボタンを押してください。



④ そのまま表示部が消えたら、設定完了です。

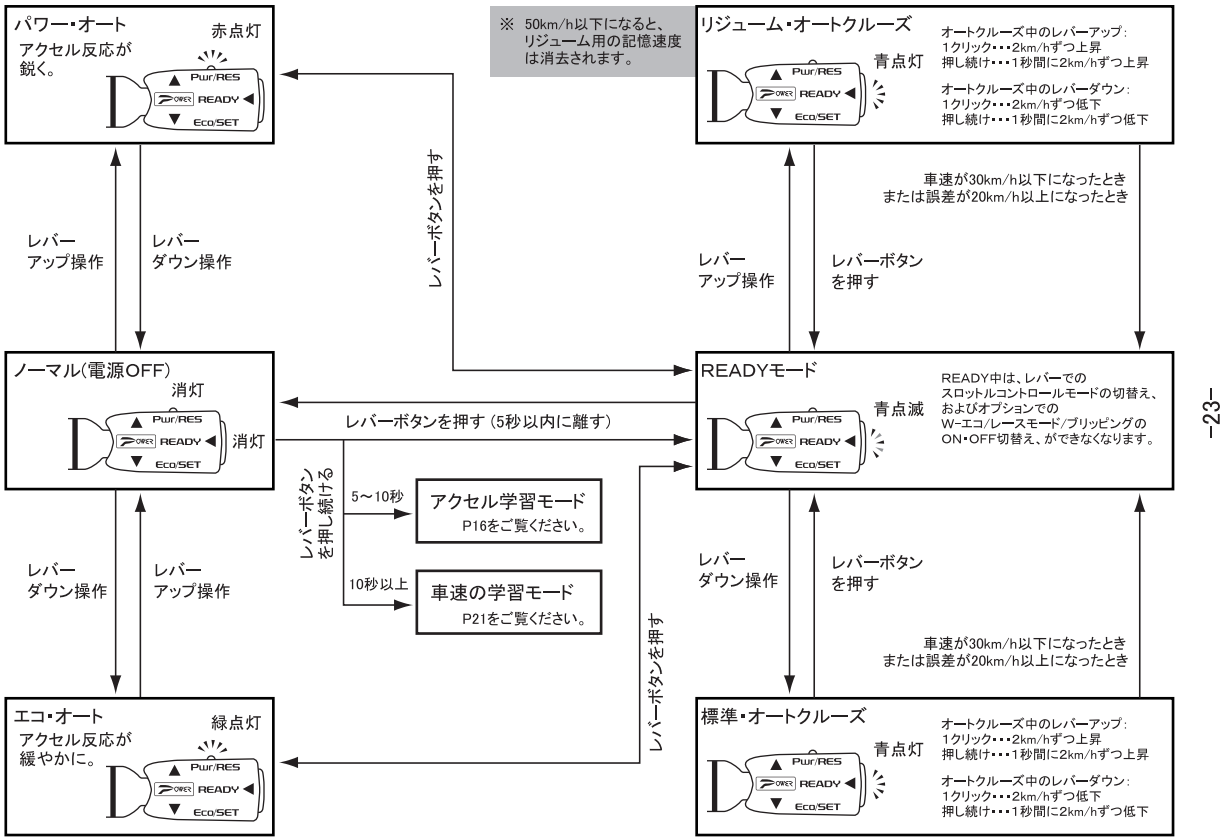


設定完了

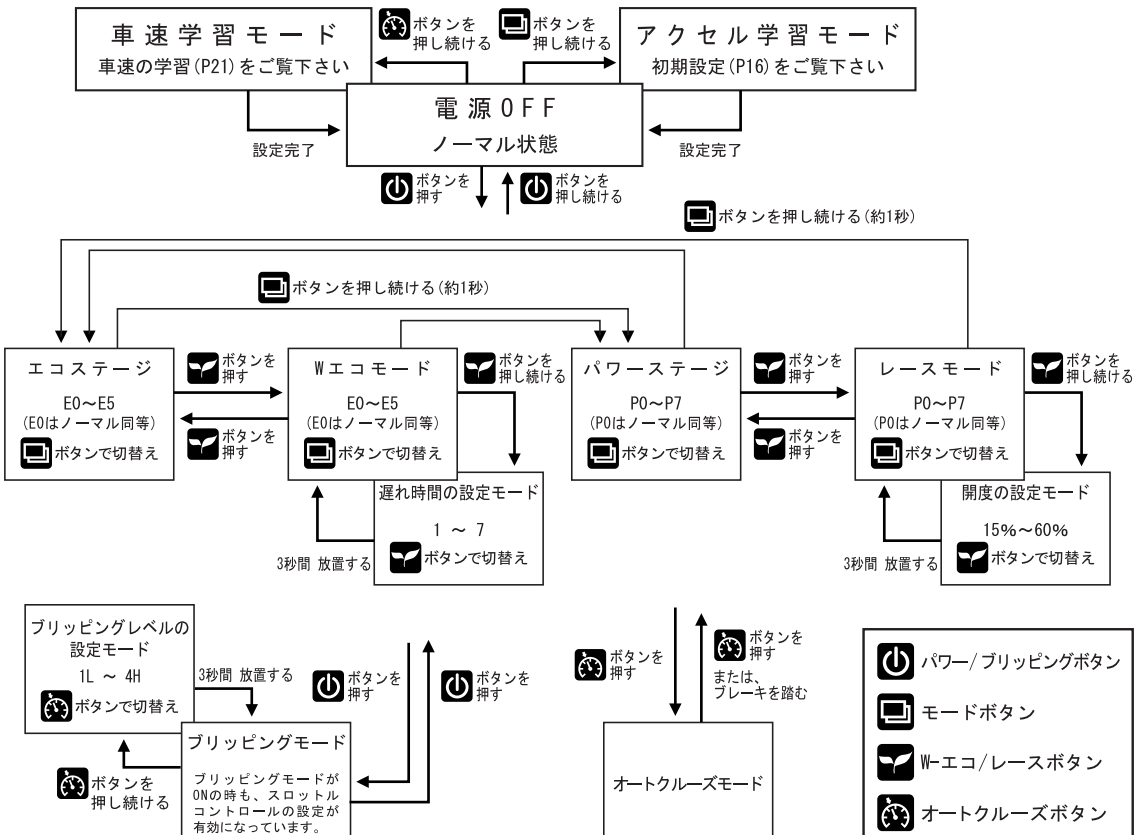
「Er」と表示されてからデジタル表示部が消えたら、設定ができていません。
もう少し高めの速度で学習してみるか、車速信号の接続を見直して再設定してください。

設定やり直し

動作一覧(レバー)


パワー・オート
赤点灯
アクセル反応が鋭く。
Pwr/RES
READY
Eco/SET
※ 50km/h以下になると、リジューム用の記憶速度は消去されます。
リジューム・オートクルーズ
青点灯
オートクルーズ中のレバーアップ:
1クリック・・・2km/hずつ上昇
押し続け・・・1秒間に2km/hずつ上昇
オートクルーズ中のレバーダウン:
1クリック・・・2km/hずつ低下
押し続け・・・1秒間に2km/hずつ低下
車速が30km/h以下になったとき
または誤差が20km/h以上になったとき
レバー
アップ操作
レバー
ダウン操作
レバーボタンを押す
レバーボタンを押す
ノーマル(電源OFF)
消灯
消灯
READYモード
青点滅
READY中は、レバーでの
スロットルコントロールモードの切替え、
およびオプションでの
W-エコ/レースモード/ブリッピングの
ON・OFF切替え、ができなくなります。
レバーボタンを押す（5秒以内に離す）
レバーボタン
を押し続ける
5～10秒
アクセル学習モード
P16をご覧ください。
10秒以上
車速の学習モード
P21をご覧ください。
レバー
ダウン操作
レバー
アップ操作
レバー
ダウン操作
レバーボタン
を押す
車速が30km/h以下になったとき
または誤差が20km/h以上になったとき
レバーボタンを押す
エコ・オート
緑点灯
アクセル反応が緩やかに。
標準・オートクルーズ
青点灯
オートクルーズ中のレバーアップ:
1クリック・・・2km/hずつ上昇
押し続け・・・1秒間に2km/hずつ上昇
オートクルーズ中のレバーダウン:
1クリック・・・2km/hずつ低下
押し続け・・・1秒間に2km/hずつ低下

動作一覧(表示ユニット)


車速学習モード
車速の学習(P21)をご覧下さい
ボタンを押し続ける
ボタンを押し続ける
アクセル学習モード
初期設定(P16)をご覧下さい
電源OFF
ノーマル状態
設定完了
設定完了
ボタンを押す
ボタンを押し続ける
ボタンを押し続ける(約1秒)
ボタンを押し続ける(約1秒)
エコステージ
E0～E5
(E0はノーマル同等)
ボタンで切替え
ボタンを押す
ボタンを押す
Wエコモード
E0～E5
(E0はノーマル同等)
ボタンで切替え
ボタンを押し続ける
パワーステージ
P0～P7
(P0はノーマル同等)
ボタンで切替え
ボタンを押す
ボタンを押す
レースモード
P0～P7
(P0はノーマル同等)
ボタンで切替え
ボタンを押し続ける
遅れ時間の設定モード
1 ～ 7
ボタンで切替え
3秒間 放置する
開度の設定モード
15%～60%
ボタンで切替え
3秒間 放置する
ブリッピングレベルの設定モード
1L ～ 4H
ボタンで切替え
3秒間 放置する
ボタンを押す
ボタンを押す
ブリッピングモード
ブリッピングモードがONの時も、スロットルコントロールの設定が有効になっています。
ボタンを押し続ける
ボタンを押す
ボタンを押す
または、ブレーキを踏む
オートクルーズモード
パワー/ブリッピングボタン
モードボタン
W-エコ/レースボタン
オートクルーズボタン

オートクルーズの操作方法

オートクルーズに関する注意事項

本製品のオートクルーズ機能は、高速道などでアクセルを自動制御して車両速度を一定に保ち、運転者が車速を調整する負担を減らすための機能です。道路の混雑具合や車間距離などの交通状況、人・車両の飛び出しなどのイレギュラー、道路のカーブや落下物などの道路状況、その他を検知する機能はありません。居眠りや脇見運転などには十分気をつけ、今まで通り交通法規に従った運転をしてください。

交通量が多い道など、車間距離を十分に保てない状況ではオートクルーズ機能を使用しないでください。追突事故の原因となる恐れがあります。

ブレーキを自動制御する機能はありません。
エンジンブレーキのみで車速を維持できないような下り坂ではドライバーのブレーキ操作による車速の調整を行なってください。

凍結や積雪時など、路面がスリップしやすい状況ではオートクルーズ機能を使用しないでください。タイヤがスリップする恐れがあります。

オートクルーズ中にシフトをNレンジにしたり、クラッチ(MT車)を踏まないでください。空吹かし状態になり、その後Dレンジに戻す(クラッチを繋ぐ)と急加速する恐れがあります。

車速の学習を行なっていなかったり、60km/hから大幅にずれた車速で学習させると、オートクルーズの精度が悪いばかりか安全のためのオートクルーズ強制解除が作動しない恐れがあります。
P21～に従って、車速の学習を正確に行なってください。

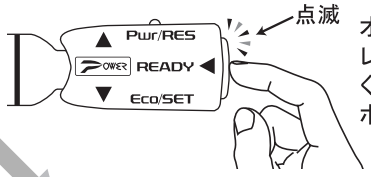
以下のような場合には、安全のためにオートクルーズを強制的に解除します。また、リジューム用の速度(P26)はメモリから消去されます。
・実車速と目標速度の差が20km/h以上になったとき
・オートクルーズ中、実車速が30km/hを下回ったとき

安全のため、速度が30km/h以下のときはオートクルーズを開始することができません。

できるだけアクセルを一定に保った状態でオートクルーズを開始してください。加速中などにオートクルーズを開始すると、任意の速度でオートクルーズしなかったり、誤差が大きくなる恐れがあります。

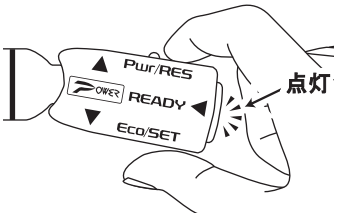
オートクルーズの操作方法

オートクルーズを開始するには



オートクルーズを開始するためにはまず、レバーボタンを押してREADY状態にしてください。
ボタンが青く点滅します。

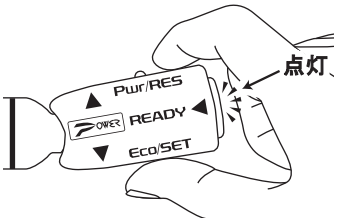
① 現在走行している速度でオートクルーズする



レバーを下に倒し、アクセルペダルから足を離してください。
ボタンの点滅が点灯に変わり、現在の速度を維持するように自動的にアクセルが制御されます。

または、表示ユニット(別売)のオートクルーズボタンを押すことで、現在の速度でオートクルーズを開始できます。

② 前回のクルーズ速度でオートクルーズする(リジューム機能)



レバーを上に倒し、アクセルペダルから足を離してください。
ボタンの点滅が点灯に変わると同時に、前回クルーズしていた速度まで自動的に加速(減速)してオートクルーズします。

危険

自動的に加速しますので、車間距離が狭い状況ではリジューム機能は使用しないでください。

注意

リジューム機能を使用できるのは、50km/h以上の速度でオートクルーズをした後です。

速度が50km/hを下回るとリジューム機能は作動せず、また同時にリジューム用の速度はメモリから消去されます。

オートクルーズの操作方法

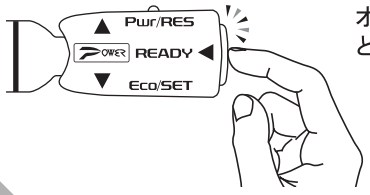
オートクルーズを解除するには

オートクルーズ走行を止めて通常の走行に戻るには、以下の3通りの方法があります。

① ブレーキを踏む

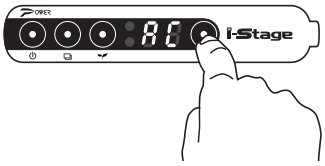
オートクルーズ中にブレーキを踏むことですぐにオートクルーズが解除されます。

② レバーボタンを押す



オートクルーズ中にレバーボタンを押すことですぐにオートクルーズが解除されます。

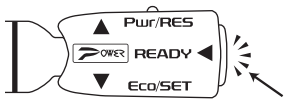
③ 表示ユニット（別売）のボタンを押す



オートクルーズ中に表示ユニットのオートクルーズボタンを押すことですぐにオートクルーズが解除されます。

オートクルーズの操作方法

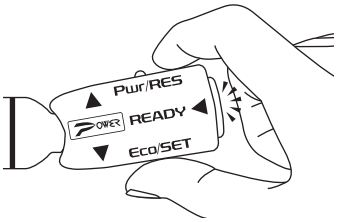
オートクルーズ中の加減速について



オートクルーズ中は点灯

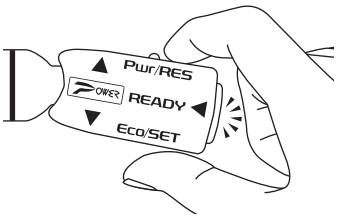
オートクルーズ中に、以下の方法でオートクルーズ速度を変更することができます。

① レバーでの加減速



ワンクリックで2km/hずつ上昇
押し続けると1秒間に2km/hずつ上昇

オートクルーズ中にレバーアップ操作をすることで、車速(※目標車速)が2km/hずつ上がります。
また、レバーアップのままにしていると、車速(※目標車速)が1秒間に2km/hずつ上がります。



ワンクリックで2km/hずつ低下
押し続けると1秒間に2km/hずつ低下

オートクルーズ中にレバーダウン操作をすることで、車速(※目標車速)が2km/hずつ下がります。
また、レバーダウンのままにしていると、車速(※目標車速)が1秒間に2km/hずつ下がります。

② アクセルを踏んで再設定

アクセルを踏んで加速
&レバーボタンで
オートクルーズ解除

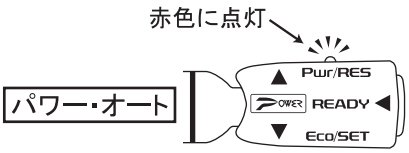
レバーダウン操作で
オートクルーズ再設定

オートクルーズ中でもアクセルペダルでの加速ができます。
加速後、アクセルペダルを戻すと元のオートクルーズ速度まで減速し、オートクルーズを再開します。

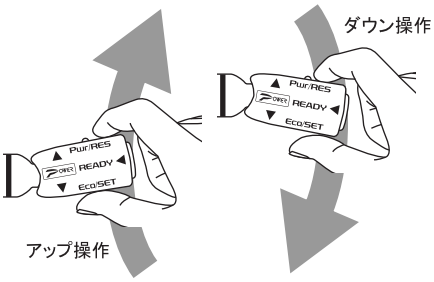
アクセルペダルで加速した後にレバーボタンでオートクルーズを一度解除し、すぐにレバーダウン操作をすることで加速後の速度でオートクルーズできます。

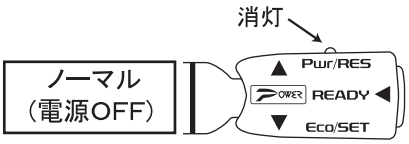
オート・スロットルコントロールの操作方法

スロットルコントロールのモード切替え

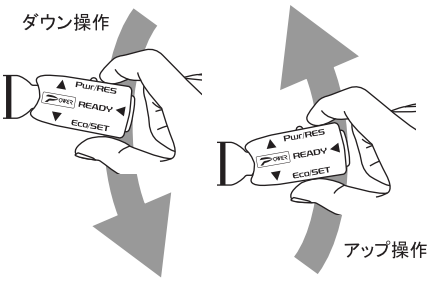


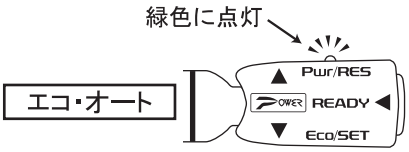
運転状況に応じたアクセル制御学習を行ないます。パワー・オートでは、よりレスポンスの良いキビキビした走りになります。





ノーマルでは、アクセルレスポンスは純正になります。
※i-Cruise内で一切の制御を行なわず、i-Cruiseが取付けられていないことと同じ状態になります。



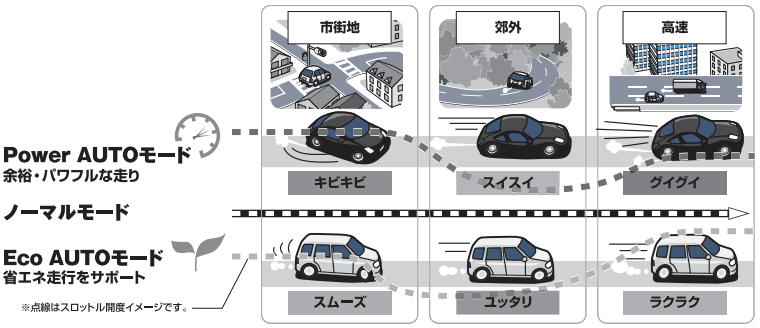


運転状況に応じたアクセル制御学習を行ないます。エコ・オートでは、よりスムーズでエコな走りになります。

オート･スロットルコントロールの操作方法

オート・スロットルコントロールの効果

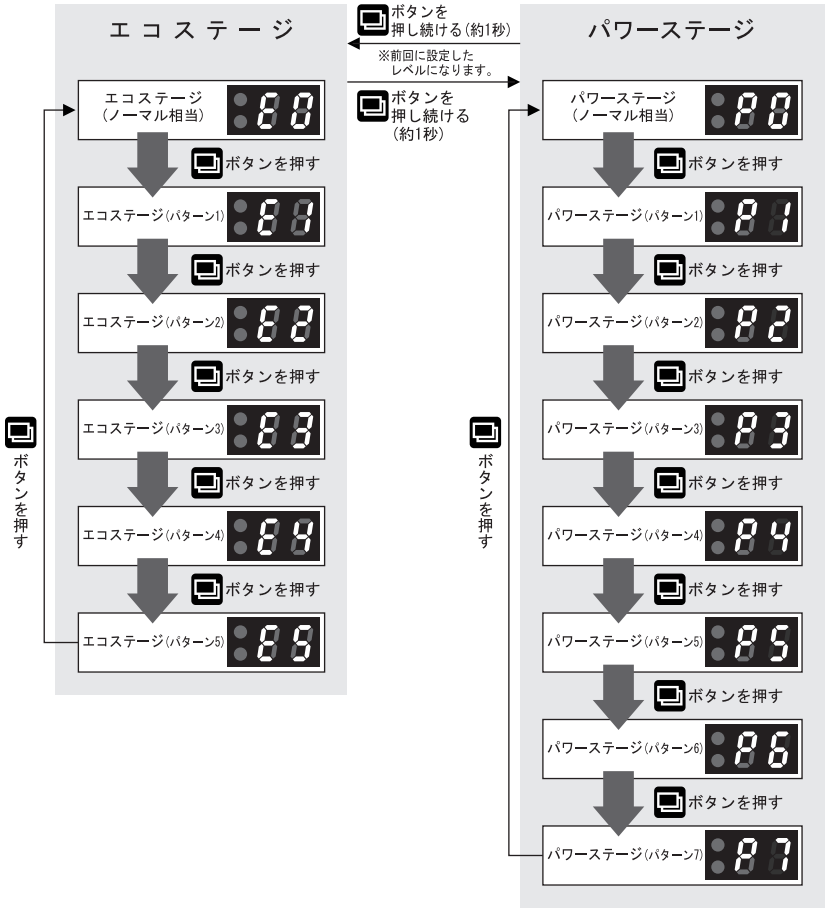
オート・スロットルコントロールにしていると、走行ステージに応じて
常に最適な走りになるようなアクセル制御をフィードバックします。
その概要は、下図のようになっています。



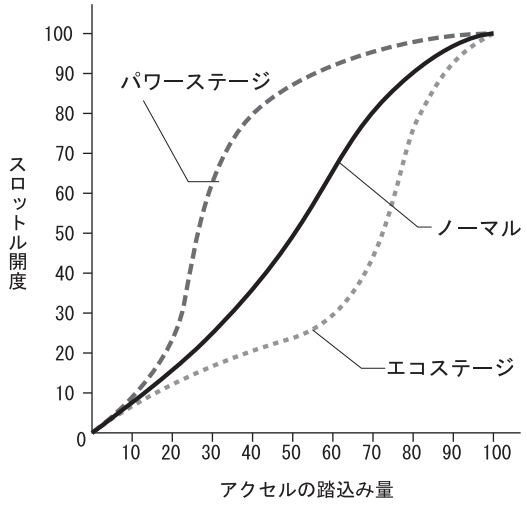
マニュアル・スロットルコントロールの操作方法(拡張機能)

スロットルコントロールのステージとパターンの切替え方法
パワーステージではP0がノーマルと同じアクセル特性であり、数字が大きくなるほどアクセルレスポンスが鋭くなります。P0からP7まで、8パターンから設定できます。
エコステージではE0がノーマルと同じアクセル特性であり、数字が大きくなるほどアクセルレスポンスが緩やかになります。E0からE5まで、6パターンから設定できます。

ステージ / パターン切替え概略図



スロットルコントロールのイメージ図



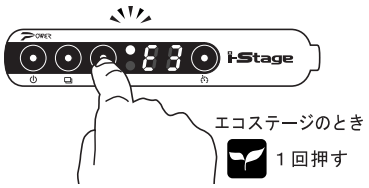
アクセル開度の表示機能

アクセルから足を離している状態を0%､床まで踏込んでいる状態を100%として､i-Cruiseが車両のコンピュータに出力しているアクセル開度を表示します。
表示開度は15～100%で5%刻みに表示します。（100%は「－－」と表示されます。）
アクセル開度が15%以下の時にはスロットルコントロールのステージとパターンを表示します。

アクセルから足を離している状態を0%、床まで踏込んでいる状態を100%として、i-Cruiseが車両のコンピュータに出力しているアクセル開度をオプションのデジタル表示部に表示します。

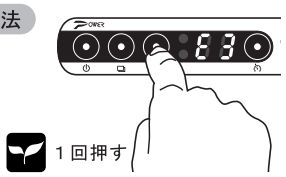
W-エコモード操作方法(拡張機能)

緑色のLEDが点灯している状態が、W-エコモードです。



W-エコモードをONにするには、エコステージ(E0～E5)の時にW-エコ/レースボタンを押してください。

解除方法



W-エコモードを解除するには、もう一度W-エコ/レースボタンを押してください。
また、イグニッションをOFFにするか、表示ユニットの電源をOFF(消灯)にすると、再びONにした時にはW-エコモードは自動的に解除されます。

スロットルの遅れ時間は、以下の手順で調整することができます。

スロットルの遅れ時間を調整するには

① W-エコモードがONの状態(緑のLEDが点灯)で、W-エコ/レースボタンを押し続けてください。
デジタル表示部に、1～7の数値が表示されます。

② W-エコ/レースボタンを押すたびに、数値が1ずつ上昇します。
最大は7で、7の次は1に戻ります。

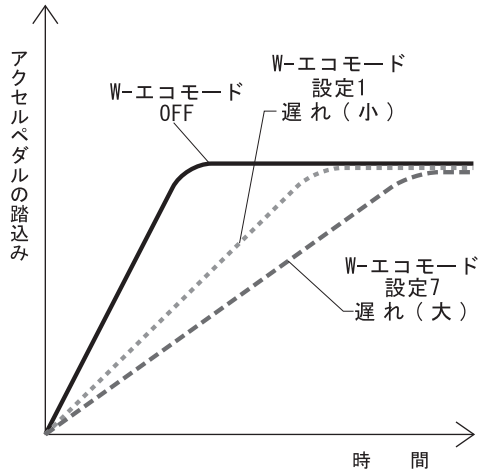
③ 約3秒間、何も操作をしないままにしてください。
設定モードから戻ります。

注意

最初から大きな値を設定すると、遅れが大きすぎ、車両がなかなか加速しない・アクセルを多めに踏込んだ時に急に加速するなどの危険が生じる恐れがあります。
最初は1～3の設定値で走行し、物足りない場合は数値を1ずつ上昇させて走行してみてください。

重要

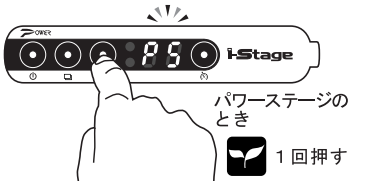
設定した遅れ時間は、i-Cruiseの電源をOFFにしたりイグニッションをOFFにしても記憶されています。



W－エコの作動イメージ

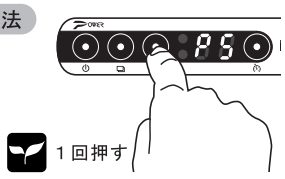
レースモードの操作方法(拡張機能)

表示部が点滅している状態が、レースモードです。
ブレーキを踏んでいない時は現在のアクセル開度(15～100%)またはスロットルコントロールのステージとパターンを点滅表示し、ブレーキを踏んでいる時はレースモードで設定したアクセル開度を点滅表示します。



レースモードをONにするには、パワーステージ(P0～P7)の時にW-エコ/レースボタンを押してください。

解除方法



レースモードを解除するには、もう一度W-エコ/レースボタンを押してください。また、イグニッションOFFにするか、表示ユニットの電源をOFF(消灯)にすると、再びONにした時にはレースモードは自動的に解除されます。

レースモードの開度は、以下の手順で調整することができます。

レースモードのアクセル開度を調整するには

① レースモードがONの状態(デジタル表示が点滅)で、W-エコ/レースボタンを押し続けてください。デジタル表示部に、15～60の数値(アクセル開度)が点灯表示されます。

② W-エコ/レースボタンを押すたびに、数値が5ずつ上昇します。
最大は60で、60の次は15に戻ります。

デジタル表示部が点滅

③ 約3秒間、何も操作をしないままにしてください。
設定モードから戻ります。

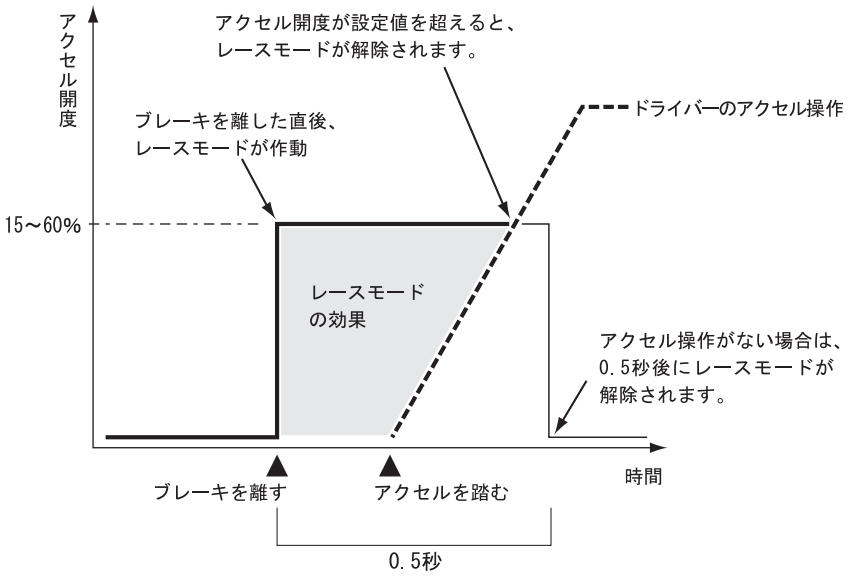
注意

最初から大きな値を設定すると、スロットルが開きすぎ、車両が急加速するなどの危険が生じる恐れがあります。
最初は15～20の設定値で走行し、物足りない場合は数値を5ずつ上昇させて走行してみてください。

重要

安全のため、この機能は40km/h以下の車速では作動しないようになっています。

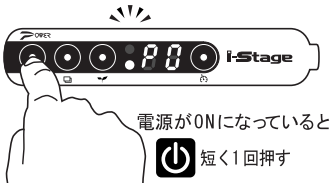
設定した開度は、i-Cruiseの電源をOFFにしても記憶されていますが、イグニッションをオフにすると初期値(15%)に戻ります。



レースモードの作動イメージ

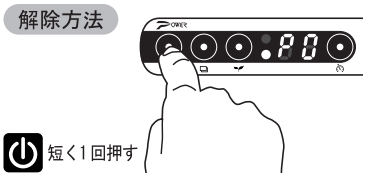
ブリッピングモードの操作方法(拡張機能)

オレンジ色のLEDが点灯している状態が、ブリッピングモードです。



ブリッピング機能をONにするには、表示ユニットの電源がONになっているとき(表示が「P※」または「E※」)に、パワーボタンを押してください。

解除方法



ブリッピング機能をOFFにするには、もう一度パワーボタンを押してください。また、イグニッションOFFにするか、表示ユニットの電源をOFF(消灯)にすると、再びONにした時にはブリッピングモードは自動的に解除されます。

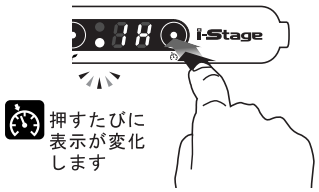
ブリッピングのレベル(タイミング・開度)は、以下の手順で調整することができます。

重要

安全のため、車速が40km/h以下の時(※)と加速中(アクセルを踏んでいる時)のシフトダウンでは、この機能は動作しません。

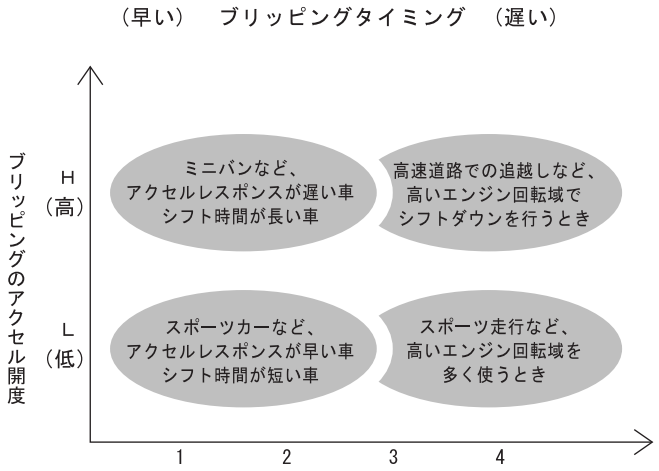
ブリッピングのレベルを調整するには

① ブリッピングモードがONの状態(橙のLEDが点灯)で、オートクルーズボタンを押し続けてください。
橙のLEDが点滅し、デジタル表示部には1L～4Hの表示がされます。



② 橙のLEDが点滅しているときには、
オートクルーズボタンを押すたびに、
表示が1L→1H→2L→2H→3L→3H→
4L→4Hと変化します。

③ 約3秒間､何も操作をしないままに
してください。
設定モードから戻ります。



ブリッピングの設定目安イメージ

エンジンチェックランプの消し方

① エンジンを停止し、イグニッションをOFFにしてください。

② そのまま５分ほど放置し、チェックランプが点灯したと思われる原因を取り除いてください。

③ エンジンを始動して1分ほど待ち、エンジンチェックランプが点灯しないことを確認してください。

重要

エンジンチェックランプが点灯した原因については、次ページからのトラブルシューティングを参考にしてください。

④ エンジンチェックランプが消えない場合は、イグニッションをOFFにし、バッテリーのマイナス端子を取外して５分ほど放置してください。

重要

バッテリーのマイナス端子を外すと、時計やオーディオの設定、その他の電子機器の設定がリセットされます。
重要な設定はメモなどに控えておくなどしてください。
なお、i-Cruiseの初期設定<アクセル、車速>はバッテリーのマイナス端子を外してもリセットされません。

⑤ エンジンを始動して1分ほど待ち、エンジンチェックランプが点灯しないことを確認してください。

⑥ この方法でもエンジンチェックランプが消えない場合は、カーディーラー、修理工場などにご相談ください。

トラブルシューティング

i-Cruiseを使用中に何らかのトラブルが生じた場合には、i-Cruiseの故障と思う前に以下のトラブルシューティングに従って対策を行なってみてください。トラブルシューティングに従っても問題が解決されない場合や、以下に示されている内容以外の特異なトラブルが発生した場合には、すぐに使用を中止して販売店にご相談ください。

エンジンチェックランプが点灯する。

i-Cruiseをはじめて取付けたときは、必ずアクセル学習(P16)と車速の学習(P21)を行なってください。初期学習を行なわずにi-Cruiseを使用すると、チェックランプが点灯することがあります。

何かの拍子に、予期せずアクセルの学習を実行してしまった可能性があります。その場合には誤った情報でアクセルの学習がされている可能性が高いので、もう一度アクセルの学習を実行(P16)し、正しい情報を学習させてください。

純正ＥＣＵを書替えたり交換した場合、また純正アクセルペダルを交換した場合には、チェックランプが点灯する恐れがありますのでアクセルの学習をやり直してください。

レバー部のＬＥＤが全て消灯し表示ユニットに何も表示されていないときは、電源ＯＦＦ状態であり、i-Cruiseを取付けていない状態と同じです。従って、この状態でチェックランプが点灯する場合には、車種別ハーネスの取付けを見直してください。

車種別ハーネスの品番が装着車両に合致していることを適合表で確認してください。品番１Ａ/１Ｂ/１Ｃなど、コネクタ形状が同じでピン配列が異なるハーネスがあり、誤って取付けるとエンジンチェックランプが点灯します。

車種別ハーネスのコネクタ向きを間違えていないかを確認してください。特に車両側メスコネクタと車種別ハーネスオス側コネクタは、上下の向きが逆転していても力を込めると挿入できてしまうことがあります。

トラブルシューティング

レバーを動かしたりボタンを押したりしても、何も変化がない。

レバーのＬＥＤが点灯するが変化しないという場合には、車種別ハーネスの取付けに誤りがある可能性がありますので見直してください。

オート・スロットルコントロール機能は車速に連動してアクセル反応が変化します。空吹かしなどでは効果が分かりませんので、走行して確認してください。

車速信号線(青)の接触不良の可能性がありますので、配線をやり直してみてください。また、車速信号線は車種別配線図に記載の位置に接続してください。

レバーのＬＥＤが転倒しないという場合には、配線関係を全て見直してください(P12～)。特に電源線(白)、アース(黒)、車種別ハーネス、レバーと本体ユニットを接続するコネクタ(７ピン)にミスが無いかを慎重に見直してください。

オートクルーズを開始できない。または、勝手に解除される。

ＲＥＡＤＹモードになっていないときにレバーアップ/ダウン操作を行なっても、オートクルーズは開始できません。
オートクルーズを開始するには、ボタンを押してレバーボタンが青色に点滅している状態で、レバー操作を行なってください。

レバーアップ操作によるリジューム機能は、安全のため、車速が50km/hを下回ると作動しなくなり、記憶速度も消去します。
レバーダウン操作で標準・オートクルーズをし、その後50km/hを下回らない限りはリジューム・オートクルーズができます。

i-Cruiseをはじめて取付けたときは、必ずアクセル学習(P16)と車速の学習(P21)を行なってください。初期学習を行なわないと、オートクルーズが正常に動作しません。

↓次ページに続きます

トラブルシューティング

安全のため、車速が30km/h以下のときはオートクルーズを開始できません。また、オートクルーズ中に30km/hになったときには、オートクルーズは自動的に解除されます。

車速信号線(青)の接触不良の可能性がありますので、配線をやり直してみてください。また、車速信号線は車種別配線図に記載の位置に接続してください。

ブレーキ信号線(赤)の配線に誤りがある可能性があります。
ブレーキ信号線は、ブレーキを踏んだときのみ12Vになる線に接続してください。常時12Vに接続すると、オートクルーズは動作しません。

オートクルーズを開始した速度に対し誤差が生じる。

急加速中(急減速中)にオートクルーズを開始すると、実車速とメーターとの時間差などで誤差を感じる場合があります。車速・アクセル一定の状態でオートクルーズを開始するようにしてください。

車速の学習(P21)をやり直してみてください。学習時の車速が60km/hから大きくずれると、精度が悪くなります。
車速の学習は60km/h・アクセル一定の状態で実行してください。

安全のため、急なアクセル操作は行なわないように制御します。平坦な道から坂道にさしかかったときなど、一時的に速度がずれることがあります。

i-Cruiseには、ブレーキ操作を行なう機能はありません。急な下り坂などでエンジンブレーキだけでは速度が維持できない場合には、ドライバーがブレーキ操作をして車速を調整してください。

製品保証書

品 名	i-Cruise	シリアルNo.	
お買上げ年月日	年　月　日		
保証期間	1　年　間		

お客様　〒

ご住所 _____

電　話 _____

お名前 _____ 様

販売店

店　名

住　所

電　話

本保証書は、本書記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。

お買上げの日から保証期間中に故障が発生した場合は、お買上げの販売店または、当社に修理をお申し付け下さい。

この保証書は本書に明示した期間、下記条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、当社までお問い合わせ下さい。

無料修理規定

1. 取り扱い説明書などの注意書などに従った正常な使用状態で故障した場合には、当社にて無料修理致します。
2. 保証期間内に故障して無料修理をお受けになる場合は、お買上げ販売店または、当社に製品と本保証書を一緒にしてお申し付け下さい。
3. 保証期間内でも次の場合は有料となります。
   ①本保証書のご提示がない場合。
   ②本書にお買上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、および本書の字句が書き替えられた場合。
   ③ご使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および破損。
   ④お買上げ後の輸送、落下などによる故障および破損。
   ⑤地震、落雷、水害その他の天変地異、事故や異常電圧による故障および破損。
4. 本保証書は、再発行致しませんので、大切に保管して下さい。

POWER®
POWER ENTERPRISE Co.,Ltd.

パワーエンタープライズ株式会社
〒417-0047　静岡県富士市青島町43
TEL. 0545-52-0123　FAX. 0545-52-0103